

さ ざ ん か

第65号、2007年3月

とうとう暖冬のまま、今年の冬も終わってしまいました。暖かいほうが好きだから良かったと思う人もいるでしょうが、やはり冬は寒く夏は暑いのが自然でいちばんいいのだと思いませんか。冬暖かく、夏は涼しいというのはすごしやすいけれども、本当にいいことなのか悪いことなのか。過去を振り返ってみると、冷夏に泣いた農家の人も沢山いたみたいですね。

それはさておき、また春がめぐってきました。みなさまにとっては何回目の春になるのでしょうか。地球が太陽の周りを1周してまる1年。100周もしないうちに多くの人の人生は終わってしまいます。日数で言うと、3万6千5百日で、これはちょっとは長く感じます。

地球が太陽の周りをグルーッと回るといふ平面的な行動が、1年という時間に置き換えられる。不思議な気がします。まあ、時間と空間（あるいは存在）の関係や、有限と無限の関係などについては昔から頭のいい人がいろいろ本を書いています。これだという分かりやすい結論はなさそうですね。われわれ凡人のレベルでは、難しいことをどうのこうの言っても、所詮は人生一回きり、ということに尽きるのではないのでしょうか。古今東西、偉人であれアホであれ、死は一回しか経験できないのです。完璧な公平性、平等性。死が一回きりなら、当たり前ですが生も一回きり。どうせ死ぬのだから、出来るだけ長生きして生を楽しんでから旅立つことにしませんか、というのがお年寄りを前にした最近の口癖。意味のない、あるいは意味を必要としない楽観主義。統計によると今回も日本人女性の平均寿命は世界一でした。おそろべし大和なでしこ。そういえば最近のオリンピックでも活躍しているのは女性が多いのは確かですね。われらニッポン男児としては、悔しさを隠して「負けて勝つ」の精神を発揮するくらいしか世界一の和なでしこには対抗できないかもしれません。

出会いと別れの春。今年はどうな出会いと別れが待っているのでしょうか。「いま、ここに居る」ことの幸運を思いながらそのときを大切にしたいものです。

-
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でお尋ねください。骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。
 - * MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中やボケ（認知症）の予防につながることもあるからです。脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

人生九十年の生き方 貴島高則

高齢になっても、手足口を使って呆けない脳をつくる事が大切だと思っています。明治、大正、戦後になって平均寿命は今では男性 78 歳、女性 85 歳。人生九十年時代がやってきました。大事なことは呆けない脳を作ることと、手と足と口を使うことが肝要と思はれます。手を動かすこと、足は歩くなど適度に運動すること、口は喋ること。無口の人は呆けやすいということです。規則正しい生活と早期発見に心がけ、転倒などの思はぬ事故にも注意をなし、あわせて周りには細かな気配りをし良い付き合いをする。いつも若々しいおしゃれ心を忘れずに、くよくよしないで明るい気分で生活をするよう、しっかり守ってほしいと思います。そして大海和尚が説いた、気が長く、勤めはかたく、色薄く、食細うして、心広かれ。この教えを守り、輝いた余生を送りたいと思います。

(ちなみに筆者は 92 歳です。編集部注)

カラーマン、化粧を語る カラーマン (とその女)

なぜ女は化粧をするのだろうか。(それは綺麗になりたいからでしょう。当たり前だわ。そんなこと聞くほうがおかしいわ。) いったい、綺麗になってどうなるのであろうか、何をしたいのであろうか。しかも、それはあくまでも見かけに過ぎないではないか。心が美しければみかけはどうでも良いのではないだろうか。(あなたね。そんなこという男に限って、中味の薄い化粧上手な馬鹿女にころっと騙されたりするのよ。まったく。)

なぜ綺麗でなければならぬのであろうか。どういう状態をきれいと感じるのだろうか。子供の頃からどういう人が美人でどういう人がブス(あれ、それってもしかして差別用語じゃない? こんな広報誌に載せていいのかしら。抗議がきてもしらないわよ)であるかと教わったわけではないが、大多数の人が美人と認める女は確かに美しいことが多い。

いや、そもそも美しいという価値観はどこに由来するのか。景色を見て美しいと思う脳の働きはいったいどうなっているのだろうか。どういう基準で美しさを判定するのだろうか。(そういうものは理屈じゃないのよ、人間の感覚って。きれいなものはきれい、美しいものは美しいのよ)。しかし、なぜ教わりもしないのに美しいと判断できるのだろうか。(だから、それは本能みたいなものなの。人間の DNA なのよ。おいしいものは美味しいのよ)。しかし、美味しい食べ物を分析するとどういう物質が多いとか、何がどれくらいの割合で含まれているときがもっとも味が出るとかいうことを調べたテレビ番組を見たことがあるぞ。味は科学的に分析可能ではないだろうか。(まあ、味はそういう側面もあるかもしれないわね。)

美しさの要素を科学的に分析できるのだろうか。右脳がその判断をしているのだろうか。左脳の関与はどれくらいだろうか。目が大きくて、二重まぶたで、鼻が高い女が美人というわけでもないところが、不思議なところだ。(まあ、ようはバランスじゃないの、バランス。) だから、どういうバランスを人は美しいと思うか、ということを考えてるのだよ。この馬鹿女が、それが分からないから悩んでいるんじゃないか。(そんなことで悩んでいるあんたが一番アホだわ)

そんなことより、今回は化粧について考えてみたいと思ったのだった。なぜ、女は太古の昔から化粧をするのか。単にオスをひきつけるだけの目的であろうか。ライオンのたてがみとか孔雀の羽のように、動物はむしろオスが綺麗になってメスの気を引くことが多いようだ。そういう自然界の摂理に従えば、男が化粧をするのが普通じゃないだろうか(じゃ、あなたも明日からお化粧なさいませ！)

ちなみに、広辞苑では【化粧】紅、白粉などをつけて顔をよそおい飾ること。美しく見えるよう、表面を磨いたり飾ったりすること。おつくり。けそう。と書いてある。やっぱり美しく見えるためにするのを化粧というわけである。特に、男が、女がということではないようだ。(最近では、若い男の子も化粧したり、エステに行ったりしてるらしいわよ。) 男のくせに化粧なんかするか！なんていうと時代錯誤者といわれるんだろうなあ。

でも、時代錯誤者のままでいいよ、おれは。(あなたは、化粧に関してでなく殆どで時代錯誤者なのだから、いまさら悩まなくてもいいのじゃないの?)

もともと綺麗な女は化粧する必要があるのだろうか。化粧で化けれる可能性がある女にこそ化粧の意味合いがあるのではないだろうか。(あなたね。そんなことは言わないほうがいいわよ、この男女共同参画社会で。) い、いやこれは本意ではなかった。言いたかったことは、常に美人だと人間の感覚の馴れにより、美人が美人で見えなくなり魅力が減ったりすることがある。ほんとうに美しく輝く女は意外とブスの側面を備えており、ある瞬間に逆説的な、とてつもない美しさを発揮することがしばしばある。光と影。その輝く瞬間のための有効な手段として化粧があるのだろう、ということだった。化粧は魔法の道具である。「カサブランカ」のイングリッド・バーグマンよりも「ウォーク・ザ・ライン」の紅を塗ったリーズ・ウィザースプーンの方が遥かに魅力的に私には思えたのだ。

化粧をしている姿も化粧をしていない姿もどちらもその人そのものだと考えるとき、もっと化粧(英語ではメイクっていうけど、あれは作るという意味合いかしら。だとしたらなかなか素敵な言葉だわ)をしてもう一人の自分を創造するのも楽しいのかもしれない。

そう、確かに化粧はクリエイティブな行為である。(あら。女の化粧なんてばかばかしくてお金の無駄遣いだ、っていうのかと思ってたら、化粧の薦めだったのね。感心、感心。

おりこうさん。)

高いお金を払って怪しい化粧品を顔に塗りまくり、さらに寝る前にはそれを落とすための別の高価な化粧品を使用する、という何ともバカバカしい非効率さもまた人生が人生である所以なんだろう。(まあ、タバコを吸って肺がんになったり、お酒を飲んで肝臓壊すのと似たようなものかしら。)

それに、男も女もみんな「心」も素のままじゃなく、他人と接するときには、なんらかの「心」の化粧しているようなものだから、お化粧することにあまり違和感を覚えなくていいのではないだろうか。

人生は短い！ようで長くもあるから、女性の皆さん、お化粧を楽しんで生きていきましょう。男性のみなさんは・・・、ほどほどでいいですよ、気持ち悪いから。

大正生まれ

宮園辰夫

「おかあさんの名前はなんてえの?」「カツコです」堅そうな名前だね。じゃカツコちゃんと呼んだら余り親しいかなー。ネー、カツコちゃん。しょうがねえなー、タドタドしくて。ぢゃ高田さんて呼んだら、へえ、立て板にコールターを流したような感じ。そうか、そしたら原田さんて呼んだら。どうでもいいや、そんなに名前を確かめなくちやならねえのか。顔とかスタイルとかすごくカッコいいのに、何でそんな名前つけたの?変かなあ。いや悪かったな、ゴメン、ゴメン。

そうかカッコいいか、うん、カッコいいよ。でももっとこわい人かと思ったけど、全然違うんだな、お母さんの顔がだんだんほころんできたぞ。やっぱり嬉しいんだな。見られたもんじゃないというよりもね、へえ、じゃカツコさんて言ったら、・・・俺の名前呼んでみな・・・コーちゃんていいんだから。ああそう。ぢゃ、コーちゃん。ハハハッー、よしよし、良かった良かった。よく出来ました。スーちゃんでもよかったけどなー。

なんだ早くいえばいいのに。

悪い所ってないかい?年だからさー。アッチコッチ痛みが出て悪い所ばかりだよ。年だ年だっていうけど、そんな年ぢやないだろう?大正十三年生まれだ。ほらみろ、明治ぢゃねえぢやないか。ハハハ、そりやあんまりだよ。ハハハ。その人だれ、ハアーきれいな子だね。ほんとにかわいいよ。今いくつなの? 22歳です。あらそう、つきあいたいね・・・すぐそれだから、余り爺ちゃんだね、ハハハ。何で来たの。「自転車で」で。そうぢやないよ。俺に会いにきたのぢやないのか。違うよ。へエー、フンドシとカケゴトは何からはず

れるって本当だね。

今、何やってるの。武者修行、いや花嫁修業です。結婚するの？する気はあるけど相手がね・・・そんなの沢山いるよ。するんならボーナスの出るような所に勤めている人がいいのだけど・・・ぜいたく言うなよ。自分と相談しながら、相応な人と結婚しなよ。それが一番。2番でないのだ。結婚したら別れるんじゃないぞ、それが2番なんだ。頑張り、折角女に生まれて来たんだ。並に生きなよ。ハイハイ、分かりました。返事は一回でいいんだ。返事の軽いやつは先がわからんぞ。

俺が通っている病院にも良い看護師さんが沢山いるけど、一人で自立できるから、いまちや分からん。先で年寄りになってから、相方の居ない淋しさが分かるんだけどね。若いうちは、一人気ままでいいもんね。ヨシエちゃんだったけ、早く良い人がいたら結婚しなよ。「ハイハイ」。遊び心でたのしもうなんて泣く日が来るぞ。幸福は自分で作るもんだ。分かったか。はい。一つの道を考へすぎると、幸福は来ないというからね。年寄りのいうことを、馬の耳に念仏ちゃだめだぞー。「一生幸せ」なんてありえないのだから。

あたたかき此の冬にして楠の木の古葉鳴らして風吹き過ぎる

体ん疲せにや爺も小言ごつ言ち

鹿児島弁 西屋敷 喜美子

大口市を終の住処と決心して10数年になります。近所の人たちと親しく交流させていただき毎日楽しく暮らしています。その暮らしの中で、私が一番困ったのは言葉でした。何を言っているのかさっぱりわかりません。まさに外国に来たという感じでした。近所のおばさん同士、鹿児島弁で楽しいそうな語らい。そして私にも気軽に話しかけて下さる。

言葉がわからないだろうと、いわゆるからいも標準語で話しかけられるので何とか通じるのですが、ただ一人だけ一から十まで鹿児島弁丸出しで話しかけてくるおばさん。私が理解をしようとしまいと関係なし、仕方なく側にいる夫に通訳をして貰う。付き合いだして約三年その言葉がほとんど分かるようになった。夫は言う。あの人の言葉が分かるようになったらあんたも一人前だ。だが、聞くことは出来ても話すことは無理である。省略あり、やさしさあり、面白くて鹿児島弁大好きだ。そのおばさんも今はこの世にいない。

なつかしく思い出される。

鹿児島弁といえばさつま狂句があります。俳句でも川柳でもない鹿児島独特の文化だと思えます。漢字とひらがなでなりたっているので大体の意味は分かるが、漢字に付けられた鹿児島弁のルビが私を混乱させる。全然分からない。夫に読んで貰う。夫も初めて聞く言葉が少なくないと言う。さつまなまりで一句読み上げて貰いながら大笑いである。また唱が面白い。的確な批評。鹿児島の人のとんちと洒脱に感心している。

家の前の道路を小学生が大きな声で話しながら通る。使っている言葉は標準語である。今の子供たちはほとんど鹿児島弁を使わなくなった。テレビのレポーターが天文館などで鹿児島弁の意味を若い人に聞いているが、ほとんど分からないようである。残しておきたいふる里言葉も一つ一つ消えて行く。淋しい限りだ。私は鹿児島弁は大好きだ。これからも鹿児島弁を聞きたい、使いたいと思っている。

春の雲 姉は機上の人となり

春の空 終の住処すまひと 決心す

【西行】1118年～90年。平安末期の歌人。藤原秀郷の末裔にあたり、鳥羽法皇に仕える北面の武士だったが、23歳の若さで出家。吉野山の麓に庵を結び、仏道と歌道に精進した。自らの願いどおり、1190年春、桜の咲く2月16日に入滅し、河内国南葛城の弘川寺に葬られた。

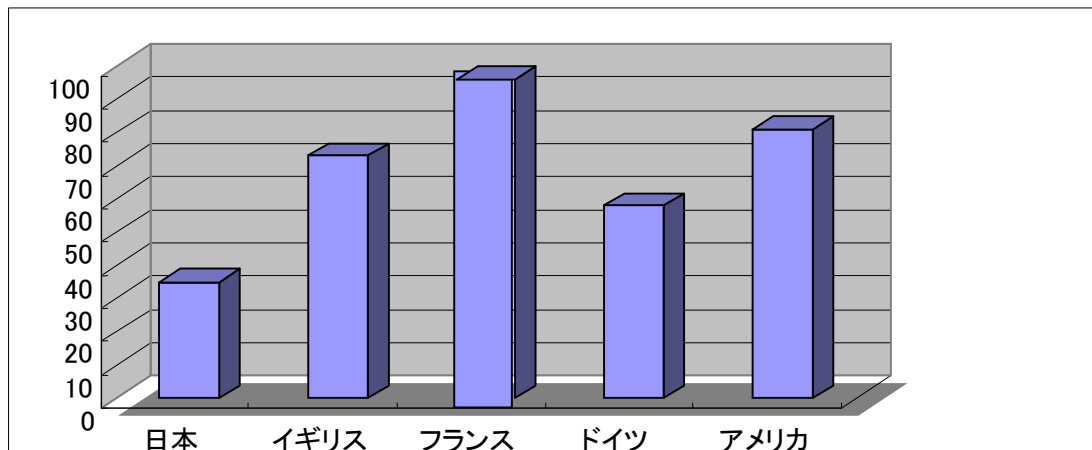
春風の花を散らすと見る夢は覚めても胸のさわぐなりけり

ねがはくは花の下にて春死なんそのきさらぎの望月の頃

資料から見る医療・福祉：日本の公務員数

最近、小さな政府にして医療や福祉の支出を減らそうという発想も一部にはあるようですが、じつは日本政府はすでに十分小さな政府であるようです。公務員数は各国と比べると断然少ないという現実があります。小さな政府にするということは、医療・福祉も政府の支出を少なくして、民間主導にするということだろうと思いますが、医療・福祉は民間主導でなく公共主導のほうが、公平・公正な分配が出来るのではないかと思います。

世界の公務員数（人口 1000 人当り）



編集後記

暖冬ではありましたが、今は春寒のようで、連日冬を思わせる寒い日が続いています。桜の開花ももうすぐですがパッと咲きパッと散るその風情は日本人の性格に合っているからこそ、日本中で花見が賑やかなのだと思います。一部ではその面は悪い方向に出ると無責任主義になってしまいます。日本は「恥の文化」であるとルース・ベネディクトは「菊と刀」で述べていました。旅の恥はかきすての発想やぱッと咲きパッと散る発想は現代のモラルの崩壊に繋がっているのかもしれませんが。

少欲と少食が長生きのもとであるという、坂村真民の言葉が印象的です。時期がぴったりなので、また西行の歌を載せてみました。(KT)